

2002 年度
GNC 活動報告

平成 15 年 3 月



2002 年度GNCモンゴル植林ツアー概要報告

実施日程:2002 年 5 月 4 日～5 月 11 日

＜苗木畑での作業＞ 5 月 5 日～5 月 7 日

参加者

: 日本からのツアー参加者 6 名(現地留学生 1 名)、TNTgroup & エコアジア大学学生 9 名

: GNC 9 名 日本人スタッフ 2 名、現地スタッフ 7 名(畑作業員含む)

今年、待望の GNC 苗木畑(1ha)を持つことができました。

作業として、①家畜除けの柵作り と ②ウリヤスの挿し木栽培を予定していましたが、畑に移動してから生憎の天候(雨、雪)で、作業が実施できたのは半日だけでした。それでも雪の中、協力して柵作りをしました。寒くてとても大変でしたが、今迄にない思い出深い畑での作業になるでしょう。

ただ、宿泊ゲルで過ごす時間がたっぷりありましたので参加した両国の若者達はお互いにニックネーム(モンゴル人には日本名を、日本人にはモンゴル名を)を付け合ったり、モンゴル料理のポーズ作りをしたり楽しい交流が十分できたように思います。中には昨年に引き続き参加した学生たちの再会もあり、両国内に GNC のネットワークがより深く広がっていくようでとても嬉しく思っています。

今回、実施できなかった挿し木栽培についてはツォゴーさん(GNC 現地責任者)と参加したモンゴルの学生達により、私達の帰国後、実施される予定です。



＜シェルター(孤児院)訪問＞ 5 月 7 日

参加者

: ルハマーさん(ワールドビジョン)、岡葉子さん、桜さん(お二人は UB 在住)

: 日本からのツアー参加者 5 名

: GNC スタッフ 3 名(現地スタッフツォゴーさんも同行)

毎年、ツアー参加者から、孤児院(シェルター)を訪問してみたいとの希望がありました。そこで、今年はウランバートル在住の岡葉子さんに現地孤児院について調べていただき、ワールドビジョン(国際機関)が手懸けている最近開設されたばかりの①15,6 歳の少年達のためのシェルター、②小学生を中心としたライトハウス、③子供たちの両親の生活支援を目的としたトレーニングセンター(職業訓練所、ここでは、手作りのお土産販売もしていて、その収益は直接両親達の収入に還元される)の 3 個所を訪問することになりました。

少年達のニューシェルターでは、ちょうど、野菜栽培を始めたいとの希望があり、農業の専門家のアドバイスを必要としていました。そこで、GNC 現地スタッフのツォゴーさんがいろいろ相談を受け、まずはビニールハウスを建て、キュウリやトマトなどを栽培してみることになりました。私達が、訪問した当日は、ツォゴーさん指導の下、少年達とともにハウスにビニールをかける作業を行ないました。ビニール、野菜の種と苗はツォゴーさんの農場から提供されます。今夏、再び訪問する予定ですが、このハウスの中で、キュウリやトマトの収穫に立ち会えるのを今から楽しみにしています。



ライトハウスでは、大塚由紀子さん(元保母さん)の提案で、パネルシアター日本昔話『かさ地蔵』をツアー参加者全員で協力して、モンゴル語での挨拶も暗記して、熱演してくれました。子供たちはとても熱心に見入って大好評でした。その後、日本から持っていった折り紙、羽根つき、コマまわしなど子供たちといっしょに時の経つのも忘れ、夢中になって遊んでしまいました。予定時間を大幅に越えて、畑の宿泊ゲルに辿り着いたのは夜 8 時半を過ぎていました。



<小学校での紙芝居公演『木を植えた男』&記念植樹> 5月8日

参加者

: 第 18 小学校日本語選択クラス、奥園奈津子さん 高谷さん(お二人は青年海外協力隊)

: 日本からのツアー参加者 5 名、TNTgroup & エコアジア大学学生 9 名

: GNC スタッフ 2 名、通訳 ボヤナーさん

今年、訪問した第 18 小学校は日本語選択のクラス(1 年生から 10 年生まで)があり、日本語教育にとっても熱心な学校でした。校内見学の後、8 年生(13 歳)のクラスで奥園奈津子先生(青年海外協力隊)の指導の下、生徒たちと日本語で活発に Q & A をおこないました。また、全校の日本語クラスの生徒達で、私達を歓迎して、「大きなりんごの木の下で」という日本語劇をしてくれました。一本のりんごの木と人間の関わりの中に素朴に環境問題を考えさせてくれる素晴らしい劇で、日本からの参加者はとても感動しました。



昨年に引き続き、「木を植えた男」の紙芝居を今年は8年生対象に公演しました。わずかでも彼らの中に『木を植えた男』の限りない情熱を心深く受け止めてくれる生徒がいてくれることを願っています。

記念樹として40本のウリヤスを生徒達とともに植樹しました。校長先生のお話では、この一本一本の苗木を卒業してからもずっと大切に管理していく生徒を決めるそうです。できれば、同じように日本の生徒の所有者も決め、モンゴル・日本の二人で、今後も関って行って欲しいとのこと。将来、その二人が会って、語り合う日が訪れたら素敵ですね。GNCとして、現在、対象となる日本側の学校・生徒を検討しているところです。

GNCでは今後、この小学校を拠点に、モンゴルと日本の子供たちの交流を『人と自然との温かい関わり』という視点でより発展させていきたいと考えています。

(当日はモンゴルラジオ局員とThe magazineKONNICHIIWAの記者が同行し、取材を受けました。)



＜モンゴル国立大学エコロジー教育センター訪問＞ 5月9日

—施設見学 & GNC 宮木代表の講義 & 記念植樹—

参加者: エコロジー教育センター高校生、モンゴル国立大学の学生約40名

: バザルドルジセンター長、バトフウー氏(モンゴル国立大学)センターの教師3名

: 日本からのツアー参加者6名、グレさん、ダシカさん(TNT)バトボルドさん(エコアジア大学)

: GNC スタッフ2名 通訳 ボヤナーさん

エコロジー教育センターはモンゴル国での自然環境分野のより優れた専門家を早期から育成するため、全国から選抜された高校生の集まる教育機関です。今回、初めてこれら生徒達を対象に、宮木代表のGNCの活動紹介と『3つの共存』についてのミニ講義、環境問題全般について彼らと意見交換を行ないました。モンゴルにおける黄砂の問題や若者達の植林などのボランティア参加などについて彼らの生の声を聴くことができました。今後も、継続して、彼らと共に、自然環境だけに限らず、国境を越えて解決していかなければならない多くの問題を見つめ、話し合っていきたいと思っています。

記念樹として、40本のウリヤスを植樹しました。今後も、大学周辺に植樹を続けていく予定です。

(なお、この日の模様はテレビニュースで放映されました。)



<ハンオール地区土地管理所&農牧省でのヒアリング> 5月10日

GNC スタッフ 宮木、矢野、ツォゴーさん

ツアー最終日 5月10日に、GNC スタッフ3人は、ハンオール地区(GNC 苗木畑がある)区役所の土地管理所・所長と面会し、ハンオール地区における新たな環境保全の地域モデル事業(ミニパーク造成、街路樹植樹など)についてのお話しました。また、今夏に開催予定のセミナー(各方面の専門家が参加予定)に備えて、農牧省の ロッソンバット氏(1999年にもお話を伺った方です。)に主に放置農地の現状把握を中心に 今後、モンゴル国における草原復元にどう取り組んでいくかなど会議前のお忙しい中、お話を聞かせていただきました。

<全体交流会> 5月9日 ビシレルトホテルにて

今年も多くの方々との出会いがありました。皆様お世話になりました、そしてありがとうございました。



ツアー中、ウランバートル市内のあちこちで、土が掘り起こされ植樹されているのを見かけました。今、確かに、環境に対する街全体としての新たな取り組みが始ったように思えます。

GNC現地調査概要報告(2002年9月)

実施日程:2002年9月14日～9月21日

参加者:GNCスタッフ 宮木、矢野、ツォゴ(GNC モンゴル責任者)、オブザーバー森泉恵子(大学1年生)

<畑の防風林&苗木畑の現状>9月15日～9月17日畑滞在

今年、待望の GNC 苗木畑(1ha)を持つことができ、春のツアーでは雪の降る中、柵作りをしました。その後、現地の仲間によって柵作りは完成しました。残念ながら、ウリヤスの挿し木栽培は今年度は間に合いませんでしたが、来年度より、今年の春訪問した第18学校の生徒達とともに苗木作りをスタートします。



2002年5月雪の中での柵作り



2001年5月強風の中での植樹



2000年3月ウリヤス植樹



2000年3月アカシヤ植樹



完成した新しい畑の柵
(2002年9月)



2年続きの早魃のため育ちが悪いウリヤス(2002年9月)



2年半経ったウリヤス
(2002年9月)



2年半経ったアカシヤ
(2002年9月)

<シェルター(孤児院)再訪> 9月16日

5月に訪問して一緒にビニールハウス作りをした少年達のニューシェルターでは、その後ツォゴ氏の農場から提供されたキュウリ、トマト、キャベツの苗を育てました。夏にはかなりの収穫があり、他のシェルターにも配ることができたそうです。井戸がないため厳しい水遣り作業も15人の少年達で一生懸命行なったようです。初めての野菜作りと収穫に少年達は皆「とても嬉しかった！また育ててみたい！」と言っていました。



2002年5月ビニールハウス作り



2002年9月撮影

<第18学校再訪—記念植樹したウリヤス> 9月18日

今年、訪問した第18学校は日本語選択のクラス(1年生から10年生まで)があり、日本語教育にとっても熱心な学校でした。

5月に記念樹として40本のウリヤスを生徒達とともに植樹しました。

来年から、日本語選択クラスの8年生を対象にモデル農場見学&苗木栽培の課外学習を実施していく予定です。彼等にとってきっと有意義な意味深い体験学習となることでしょう。



2002年5月の記念植樹



早魃のため枯れてしまった木もみられが、全体的によく水遣りをしてくれました。

枯れた苗木については再植樹いたします。



環境教育に熱心なエンフバット校長



ザヤ先生

<セミナー開催>9月19日

(モンゴル国立大学エコロジー教育センターにて)

テーマ:—モンゴル国の持続可能な発展—

参加者:

:バザルドルジエコロジー教育センター長、

:バトフウ先生(モンゴル国立大学)

:ザヤ先生(第18学校、NGO活動)

- :エコロジー教育センター専門家 ナランゲルさん、オランチメグさん、バヤルマさん、ドルナルンフーさん
- :宮木(GNC 代表)、矢野(GNC スタッフ)、
- :オブザーバー森泉恵子(大学生)
- :通訳 ツォゴ(GNC モンゴル責任者)



当日急用のため欠席された先生方もおられ、小人数のセミナーでしたので、一人一人の日ごろの考えについて、じっくり話し合うことができました。

その中で、どの参加者も共通に強調したのは、企業、大学、各年代の学校、NGO、地域住民、自治体など地域の各セクターが協力し合って事業をすすめることの重要性、そして教育の重要性でした。参加者の一体感も強まり、実現可能な具体的事業案が幾つも提案されました。

今後ここで提案された事業案をあらゆる角度から十分吟味し、是非良いかたちで実現してゆきたいと思います。

<モンゴル国立大学エコロジー教育センターに記念植樹したウリヤス>



2002年5月の記念植樹



旱魃の影響で、枯れてしまったものもありますが、全体的に良く管理してくれていました。

<ハンオール地区副区長訪問> 9月16日

ハンオール地区(GNC 苗木畑がある)副区長と面会し、ハンオール地区における新たな環境保全の地域モデル事業(ミニパーク造成、街路樹植樹、苗木畑の充実など)についてお話をしました。また、この地区の最新の統計資料について、担当者よりヒアリングし、より詳細にこの地域の現状を把握できました。今後のこの地域での事業展開において役に立てていきたいと思っています。



＜モンゴル日本センター訪問＞ 9月20日

当センターはモンゴルと日本両国間の理解を促進し、モンゴルの市場経済化を支援するために日本政府の無償資金協力 4.4 億円で建設されました。

実施される事業は JICA の「モンゴル・日本人材開発センタープロジェクト」として 2002 年 1 月にスタートしました。この中のジャパンクラブは日本とモンゴルの友好促進に寄与している NGO を支援する事業に利用されます。GNC として、今後、セミナー開催やその他色々な面で、関わりが出てくるものと思われれます。センター長の四釜氏よりモンゴルの現状、および日本人の対モンゴル意識の抱える様々な問題点を伺うことができました。



＜ウランバートル市街地の街路樹＞ 9月16日

2001 年 CAM&J と共に、スフバートル広場のちかくに街路樹を 8 本記念植樹しました。旱魃の影響で、4 本は枯れていましたが、残り 4 本はしっかりと活着していました



2001年5月の記念植樹



2002年9月

2002年度研究報告会

第3回NGO合同研究&活動報告会

今回は青山の国連大学敷地内の地球環境パートナーシッププラザをお借りして、3回目となる合同研究&活動報告会を開催しました。例年通り、内モンゴル沙漠化防止植林の会との共催です。

周囲に展示品が並べられ、全面ガラス張りで、青山通りを見渡せる明るくゆったりしたスペースです。このようなスペースでリラックスしてお互いの経験を交換することの素晴らしさをあらためて実感しました。良い勉強にも刺激にもなりましたし、お互いアイデアもたくさんでした。そして何より、「元気」「パワー」「希望」をもらえました。参加者皆が明るく笑いあいながら帰路についたことがその何よりの証拠です。この出会い、縁を大切に、じっくりと育ててゆくことが、将来の大きな流れへとつながると確信しています。GNC代表 宮木いっぺい

◆開催日:2003年2月22日(土)12:30~16:00

◆場所:地球環境パートナーシッププラザセミナスペース

◆参加団体

- ①FOEJ(地球の友ジャパン)中国沙漠緑化プロジェクト
- ②沙漠緑化団体 地球緑化クラブ
- ③内モンゴル沙漠化防止植林の会
- ④GNC(Global Network for Coexistence)

◆プログラム

前半:『内モンゴルにおける沙漠緑化活動事例報告』

報告:沙漠緑化団体 地球緑化クラブ代表 原 鋭次郎氏

後半:各参加団体の活動報告&意見交換

主催:GNC(Global Network for Coexistence)

内モンゴル沙漠化防止植林の会



沙漠緑化団体 地球緑化クラブ
代表:原 鋭次郎氏



国際環境 NGO FoE(地球の友) Japan
中国 沙漠緑化プロジェクトディレクター
成田 正之氏



GNC(Global Network for Coexistence)
代表 宮木いっぺい氏



内モンゴル沙漠化防止植林の会
代表 B.セルゲレン氏



内モンゴル沙漠化防止植林の会
事務局 車 知也氏



各団体活動報告後の 意見交換会では
途切れることなく活発なやりとりがありました。

参加団体プロフィール

国際環境 NGO FoE(地球の友) Japan

代表 岡崎時春

〒171-0031 東京都豊島区目白 3-17-24 総合設計機構ビル 2F

TEL 03-3951-1081 FAX 03-3951-1084

中国 沙漠緑化プロジェクトディレクター

成田 正之

E-mail:foej-narita@jcom.home.ne.jp <http://www.foejapan.org/index.html>

世界 68 カ国にネットワークを持ち、国連に NGO として正式に承認されている Friends of the Earth のメンバーです。地球上すべての生命(いのち)がバランスを取りながら心豊かに生きることができる「持続可能な社会」をめざし、1980 年より日本で活動を続けています。「国際プログラム」(気候変動・エネルギー、開発金融と環境、森林問題)、身近な問題に取り組む「くらしとまちづくり」などの提言活動、「海外プロジェクト」、「国内参加型プロジェクト」などに取り組んでいます。2001 年、中国内モンゴル自治区において沙漠緑化活動を始めました。

沙漠緑化団体 地球緑化クラブ

代表:原 鋭次郎

E-mail:sabaku@ryokukaclub.com <http://www.ryokukaclub.com/>

[活動主旨]

日本・中国だけでなく世界に発信する地球緑化活動を継続していく為に、誰でもいつでも参加できるクラブ活動のような存在として、現地で最良な砂漠緑化の方法を常に模索し地道な活動を行なっていくこと。

[運営方針]

- ①現場主義(緑化活動を現地住民と共に行なうこと)で、お互いの力と知恵を合わせて砂漠緑化に全力を注ぐ。
- ②助成金・会員費等に頼り過ぎない運営を目指す。
- ③現地の人々が無意識に自ら緑化活動を行なえる状態(日本人が庭に木や花を植えるような感覚)にまですることを、それぞれの活動地での最終目標とする)

内モンゴル沙漠化防止植林の会

代表 B. セルゲレン

〒112-0011 文京区千石 3-8-2-401 TEL/FAX 03-3945-2458

代表メール shokurin@md.neweb.ne.jp <http://www2.neweb.ne.jp/wd/sergelen/desert.html>

内モンゴル沙漠化防止植林の会は中国内モンゴル・ホルチン沙漠において、牧草地・農地の沙漠化防止を目的とした活動に取り組んでいます。実施に当たっては、現地住民の環境意識の昂揚と生活文化の相互理解を深めるため、日本側の植林協力隊と地元牧民や学生たちの交流にも重点を置いた活動を行っています。ハッフル・ソムでの活動の他、学校自立支援経済林プロジェクトとして昨年より開始したゴルバンファ・ソムに加え、来年度より新たに2つの中学校でも活動を開始します。また、高等教育への進学支援として奈曼旗蒙古族中学への内モンゴル育英緑化基金も運営しています。

GNC(Global Network for Coexistence) レジューメ

代表 宮木いっぺい

〒176-0004 東京都練馬区小竹町 2-16-12-103 TEL&FAX 03-3958-0948

E-mail:kyouzongnc@gmail.com <http://kyouzon-gnc.com/>

私たちは、①国、民族など人類相互の共存、②自然と人間の共存、③過去、現在、未来の共存という3つの『共存』をめざしています。その実現のために、人々が国境を超え問題解決のために共に行動を起こし、ネットワークを広げていく事が大きな原動力になると考えています。現在、モデル農場作り、草原復元、植林、学校訪問、孤児院支援、シンポジウム開催など様々な活動を通して、モンゴル国の多くの人々と共に、持続可能な地域作り、国作りをすすめる活動をしています。